



CQM(超短期経済予測モデル)

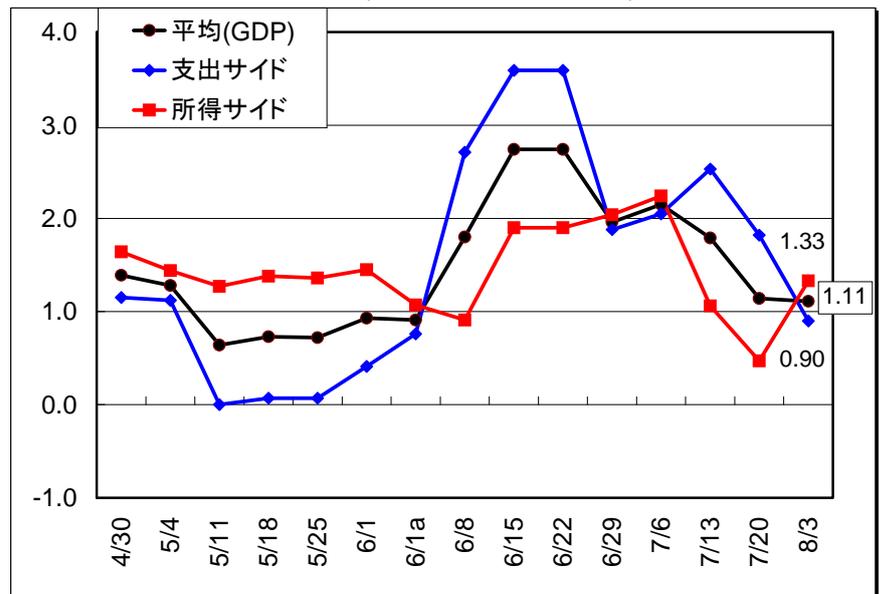
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年8月3日)

ポイント

- ▶今週の CQM は 2012 年 7-9 月期の GDP 伸び率を支出、所得サイドからそれぞれ 0.90%、1.33%と予測している (グラフ)。
- ▶インフレ率に関しては、ヘッドラインインフレ率、そのコアインフレ率を共に 1.5%程度と予測している。
- ▶今週の CQM 予測には 6 月の企業在庫、貿易収支の実績値が更新されていない。そのため、景気の現状判断には、GDP から在庫、純輸出を除いた実質最終需要をみるのが良い。
- ▶今週の CQM は今期の実質最終需要の伸び率を 2.5%程度と予測しており、今後の GDP 予測の上方修正を示唆している。
- ▶実質最終需要の伸び率が 2.5%と高いことから、9 月の FOMC ミーティングにおいて連銀が QE3 を導入する可能性は小さい。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



<9月のFOMCミーティングにおける連銀のQE3導入の可能性は小さい>

8月3日のCQM予測は2012年4-6月期GDP(速報値)、6月の建設支出、個人所得・消費支出、工場受注(耐久財出荷)、自動車在庫、7月の農産物価格指数、雇用統計を更新した。今週のCQMは2012年7-9月期の実質GDP伸び率を支出、所得両サイドにおいてそれぞれ0.90%、1.33%と予測し、両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.11%となっている。

8月1日のFOMCミーティングにおいて、連銀が景気の減速を認め、更なる金融緩和(QE3)導入へのシグナルを送ったことから、市場は9月のFOMCミーティングにおけるQE3の導入を期待するようになった。しかし、8月3日に7月の雇用統計が163,000増と市場のコンセンサス(100,000)を大きく超え、それまで3ヶ月続いた100,000以下の雇用増に終止符をうつや、市場は景気見通しに楽観的になった。その結果、その日にSP500株価指数は2%上昇し5月以来の高値となった。市場はQE3の導入に関して確信が持たなくなり、8月後半にワイオミング州のJackson Holeで行われる各国から集まる中央銀行総裁たちのフォーラムでのBernanke連銀議長の講演に注目することになった。と言うのも、Bernanke連銀議長がQE2を導入した時、2010年の同じフォーラムの講演でQE2を示唆したからである。

CQMからQE3の可能性を見てみよう。CQMは今期、来期のインフレ率を1.5%程度と予測しており、連銀エコノミストにとってインフレ懸念からQE3の導入を拒む理由はない。今のCQMが予測する1.5%の経済成長率は確かに失業率を低下させるには低すぎる。しかし、CQM予測は6月の企業在庫、貿易収支の実績値を更新していない。そのため、現状の景気判断には最終需要をみるのが良い。CQMでは今期の実質最終需要の伸び率を2.5%程度と予測しており、今後の景気回復を示唆している。このことから、連銀が9月のFOMCミーティングにおいてQE3を導入する可能性は小さい。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550